

世代を超えたつながりの先に

富士吉田アクション呼びかけ人はるよし

SNS・「デモカレンダー」で42名が参加

42名。4月8日、山梨県「道の駅富士吉田」初のデモに集まった人数だ。呼びかけから1週間で、これだけの市民が集まるとは予想していなかった。

3月25日、私は国会前にいた。「平和憲法を守るための緊急アクション」に参加し、2万4000分の一として声をあげていた。高市政権への怒りから「山梨でも声をあげたい」そう考えていた。一人スタンディングの経験はあったが、デモを主催したことはなく、さすがに一人では心細い。4月1日、新婦人の会で知り合った初対面のSさんに、デモの共同主催を提言した。その場で日時を決定し、夜にバナーを作成、翌朝にはSNSにアップした。ここで「デモカレンダー」というすばらしいHPが登場する。昨今の全国的なデモの広がりとは、このデモカレンダーなしには語れない。全国の平和・反戦デ

モが検索でき、仕事や観光で訪れた街で、気軽にデモに参加することが可能になったのだ。

「高市やめろ」のコール大きくなる

私は、1年前に富士吉田に移住したばかりで、知合いは数えるほど。さて、どれだけの人が集まるのか。選挙の手伝いをしていた共産党事務所でハンドマイクを借り、プラカを20枚ほど用意した。5人ぐらいは来るだろう。そう思っていたが、じわりじわりと参加予定数が増え、当日には、なんと42名もの人が集まったのだ。デモ初参加が4名、富士吉田、山中湖、河口湖、都留、大月、上野原、甲府、箱根などから集まった。Sさんに、写真、動画撮影、歩行者の動線確保、人数確認をお願いした。私がMCを担当し、国会前のデモに連帯してコールとスピーチを交互に行った。「高市やめろ」の

◆特集 全国に広がる「ペンライトデモ」



自衛隊車両（左）に「誰も戦争に行かせない」と呼びかける筆者

コールに、参加者の声がいっそう大きくなった。富士吉田デモの特徴は、北富士演習場へ向かう自衛隊車両が通る点であろう。実際、デモの最中に自衛隊員の方から、ピースサインをもらうこともあった。そうだ、自衛隊員こそ戦争反対だ。戦争で死にたい人がどこにいたのだ。現在は、富士吉田と河口湖で、月に1〜2回デモを開催しており、毎回20〜30名の参加者がいる。年代もさまざまで、プラカ、ペンライト、カエルや旗、表現のスタイルも多様化している。SNSでの発信は、初参加へのハードルを下げるのが主な目的で、デモの様子やレポート動画で、初参加、おひとり様、5分でも手ぶらでもOKとアナウンスをしている。その甲斐あってか、

毎回初参加の方がいる。これが非常に重要で、レギュラープラス新規参加者の存在が、継続的なデモ開催を支え、世代を超えたつながりを作り出していくのだ。

山梨から、戦争反対の声を

友人は、「参加したいけれど勇気がでない」と言った。それもそのはず、大都市のそれと決定的に違うのは、常に身バレのリスクがついて回るからだ。駐車場に車が停まっているだけで、「この間、どこそこにいたでしょ？」と言われる地域で、顔を出してデモに参加するのは容易ではない。ある参加者の夫が、デモの場所をたまたま通りがかり、帰宅すると「みつともない」と言われたそう。ここでは、まず家父長制との戦いである。

甲府駅前でも同時期にデモが企画され、今では、県内の主催者、参加者が連携し、県内8カ所で定期的にデモが開催されている。海外の旅行者から、声援を受けることも多くなった。小さなデモの可視化、オープンチャットでのデモや勉強会の情報交換、世代、性別、政党や団体にしぼられない新しいつながりが、ここ山梨で育っているのだ。山梨から、戦争反対の声が消えることはない。（はるよし）